



上小阿仁・大仙キャンパスがそろって開講

…あきたふるさと学講座・地域キャンパス…

まるごと知ろう! 「独立独歩」のかみこあに 上小阿仁キャンパス



畠山金美氏

今年度の美の国アクティブカレッジあきたふるさと学講座の最後を締めくくる上小阿仁キャンパスが10月13日(土)に上小阿仁村生涯学習センターを会場に開講しました。午前の講座では「高齢社会を生きる」と題して、畠山治療院代表の畠山金美氏が整体の実演を交えて楽しいお話を繰り広げられました。午後の講座では「コアニチドリから環境を考える」と題して、理学博士の大屋俊英氏のお話がありました。上小阿仁村の村花で、現在絶滅危惧種Ⅱ類に判定されている「コアニチドリ」を軸として講義が展開されました。



大屋俊英氏

羽州街道沿いの歴史探訪 ～大仙編～ 大仙キャンパス



同日大仙キャンパスも大仙市大曲交流センターを会場に開講し、40名ほどの方々が受講しました。

午前の講座は県立博物館学芸主事の松山修氏が講師を務め、「菅江真澄、羽州街道をゆく」と題して、菅江真澄の作品に描写された旧大曲市近辺を中心とした当時の様子などについて、分かりやすく解説してくださいました。

午後からは、あきた山の学校代表の藤原優太郎氏が講師を務め

る「バスでゆく羽州街道～藩の政治・経済的支配の街道の遺構を検証～」が、移動学習として開催されました。講座会場のすぐそばを通っている旧羽州街道にバスで乗り出し、雄物川の舟運と関係の深い場所を中心にバスと徒歩で見学しました。受講者からは「地域に住んでおりながら、知らずに過ごしていることの多さに気づかされました」といった感想が寄せられました。



かつて舟運で栄えた角間川の川港跡

戊辰戦争と街道

…あきたふるさと学講座C「道の文化史」…

10月6日(土)の道の文化史第7回講座は「戊辰戦争と街道」でした。明治維新を考える会主宰の吉田昭治氏が講師を務めました。



吉田昭治氏

同氏は秋田における維新史を中心とした研究・著作を通して、歴史の解明に尽力してこられた方です。

講座の内容は、主に戊辰戦争について語られ、秋田への奥羽越列藩同盟軍の進軍の経路や戦場となった土地、戦闘の様子や経過、戦禍にあった地域住民の様子などについて時系列に沿った正確な資料をもとにしたお話でした。受講者のみなさんは資料と照らし合わせながら熱心に講義に耳を傾けていました。



地域活性化への起爆剤，Jリーグとは～秋田はJリーグの力で変わる～

…あきたふるさと学講座B「あい LOVE あきた」…



岩瀬浩介 氏

9月29日(土)のあい LOVE あきた第4回講座は、「地域活性化への起爆剤，Jリーグとは」でした。講師を務めたのは秋田フットボールクラブ取締役社長，岩瀬浩介氏でした。同氏は茨城県出身で，TDK SCが地域リーグからJFLに昇格した際に選手として大きく貢献し，2010シーズン終了後秋田フットボールクラブ株式会社入社，広報部長を経て2012年4月に取締役社長に就任しました。

「Jリーグで秋田は元気になれる」「地域に必要とされるクラブを目指していく」といった情熱あふれる講義内容に，受講者の方たちは熱心に聞き入っていました。講座修了後，「秋田県民，また子どもたちに夢を与えるお話で，とても力のあるお話だったと思います」「若い社長として，スポーツを盛り上げてほしいと思いました」「岩瀬社長のBBにかけの思いが感じ取れました。BBのJリーグへの参入を応援したいです」といった感想が寄せられました。

佐竹義重・小場義成・芦名盛重・南義種～領内要所に一族を配置～

…あきたふるさと学講座A「秋田歴史人物伝」…

10月20日(土)の秋田歴史人物伝第5回講座は「佐竹義重・小場義成・芦名盛重・南義種」でした。元県立図書館館長の半田和彦氏が講師を務めました。

講座では，手作りの資料や地図・系図などをもとに，佐竹氏が秋田に入部した際，適材適所に人材を配置し，地盤を固めていく様子が説明されました。特に，当時の湯沢や角館の都市計画につ

いて研究された際の現地調査の様子や城下絵図を作成する際の苦労などを交えたお話，現代の様子を例に挙げながら当時のそれと比較したお話に，140名近い受講者は，興味深く聞き入っていました。受講者からは，「佐竹氏秋田入部初期の諸情勢，3人の役割を具体的にご教示いただきました」「佐竹分家の出自・成り立ち・役割・業績が整理されてよく分かった」「家臣団から主人をとらえていくという切り口が新鮮でした」などの感想があり，大変好評でした。



宮沢賢治(岩手) 雨ニモ負ケズ『春と修羅』

…絆を求めて 東北の詩人たち⑤ シニアコーディネーター企画講座…



10月4日(木)の第5回は，岩手出身の作家宮沢賢治の雨ニモ負ケズ『春と修羅』をテーマに，講座が開催されました。

岩手が生んだ詩人，宮沢賢治にスポットを当てた講座で，講師の北条コーディネーターは「宮沢賢治は自分を『修羅』に見立てることで，人間に近づくために努力をしていた」と話し，テーマである詩集『春と修羅』の由来をわかりやすく説明しました。

妹トシの夭折を悼んだ『永訣の朝』という詩では，実際に岩手の言葉で朗読した音源を使用し，受講者はその朗読に聞き入っていました。

また，有名な『雨ニモ負ケズ』が成立した様子をユーモラスに話すなど，広い知識と確かな研究に裏打ちされた講座に，受講者からは「詩の朗読は非常に感銘を受けた。また雨ニモ負ケズのエピソードは興味深い。記念館を訪ねてみたい」「高村光太郎や草野心平が，その才能を見出したという宮沢賢治について，もう少し深く研究してみようと思った。大変ありがたい講座だった」といった感想が寄せられました。